

# 方 漢 才 ハ イ ニ 顔 を み れ ば 病 気 が わ か る

今、「顔をみれば病気がわかる」という、猪越恭也先生の書かれた本が評判です。

中医学の診断学には、

四診と呼ばれる望・聞・問・切という四つの診

法があります。望は見

ること、顔や舌・動作な

ど目から得られる情報

を収集します。聞は耳

で聞き、鼻で臭いを嗅

ぐ事、問は尋ねる事。

切は触って得られる情

報、脈やお腹などです。

この中で、望診にス

ポットを当て、分かり

やすく解説し、その養生法を説明した本が、

冒頭の「顔をみれば病

気がわかる」なのです。

例えば、顔に何かの

トラブルが起きたと

き、その発症部位は五

臓六腑との関係が密接

に有ります。

これは、中医学独特

の考え方で、人は宇宙

の一部であり、人体と

いう小宇宙は部分にも

全体を縮図として持つ

ていると考えます。

そこで、顔に人の体

重ねて見ると、額に心

があり、ほほの部分に

肝・肺が、口の周りに脾

が、あごのところに腎

があると見ることがで

きるのです。

例えば、額にうつす

らくすみがある場合、

これは心の症状です。

心は血を主るという理

論と色が薄いというこ

とから、血虚（血液の働

きが弱い）と考え、血を

補う働きがある「当归

芍薬散」や「婦宝当帰

膠」などで治療します。

また、頬のしみの場

合、肝の問題と考え、肝

の気の鬱滞ということ

から、肝気をスムーズ

に流す働きを持つ、加

味逍遙散などを用いて、

治療します。

しかし、これは四診

の中の望診のみの情報

です。残りの問問切に

よる情報で補完して初

めて著効が得られます。

中国政府認定国際中醫師

恒康堂薬局 中瀬佐知夫

枚方市伊加賀本町1-16

Tel: 072 (841) 0325

URL: <http://www.cocodo.com>